

令和3年度 久米南町教育会

小中合同公開授業研究会



令和3年10月13日(水)
久米南町立弓削小学校

1 研究テーマ

「自分の考えを持ち 生き生きと活動する児童の育成をめざして」
～「非認知能力」や児童の気づきを大切にしたい授業を通して～

2 日 程

13:30 14:15 14:25 14:40 15:30 15:40 16:40

公開授業	移動 休憩	開会 行事	研究協議 (部会別)	移動 休憩	講演会 【中山芳一先生】
------	----------	----------	---------------	----------	-----------------

3 公開授業

部会	学 年	単 元 名	指 導 者	場 所
知	2 年	算数科「三角形と四角形」	鳩場 千恵	2年教室
徳	6 年	総合的な学習 「伝えよう、ほんにいいところ米南町」	黒澤 賢臣	6年教室
体	3・4年	体育科「走・跳の運動 幅跳び」	長子谷 幸一	運動場 雨天時；体育館

4 開会行事および研究協議会場について

知 2年 図書室(2階)

徳 6年 多目的ルーム(1階)

体 3・4年 理科室(1階)

5 指導講評

知 津山教育事務所義務教育支援課学力向上班

指導主事 芦田 周作 先生

徳 岡山大学全学教育・学生支援機構

准教授 中山 芳一 先生

体 岡山県総合教育センター研修部義務教育班

指導主事 小倉 馨 先生

6 講演会

テーマ 『弓削小の取り組み まるわかり講座』

講 師 岡山大学全学教育・学生支援機構 准教授 中山 芳一 先生

会 場 体育館

令和3年度 弓削小学校 校内研修計画

1. 研究主題

「自分の考えを持ち 生き生きと活動する児童の育成をめざして」

～ 「非認知能力」や児童の気づきを大切にしたい授業を通して～

2. 研究主題について

本校の教育目標は「夢をもち 元気で学ぶ やさしい子の育成」である。めざす児童像は、「よく学び考える子」「思いやりのあるやさしい子」「いきいき元気で最後までがんばる子」である。この知徳体のバランスの取れた児童を育成することで、児童に新しい時代に必要となる資質や能力をバランスよく身に付けることができるのではないかと考え、日々の教育活動に取り組んできた。

その結果、一生懸命学習に取り組み、自分の考えや思いを表現しようとする児童が多くなってきた。しかし、「主体的・対話的で深い学び」という姿には、まだ近づく余地があると思われる。

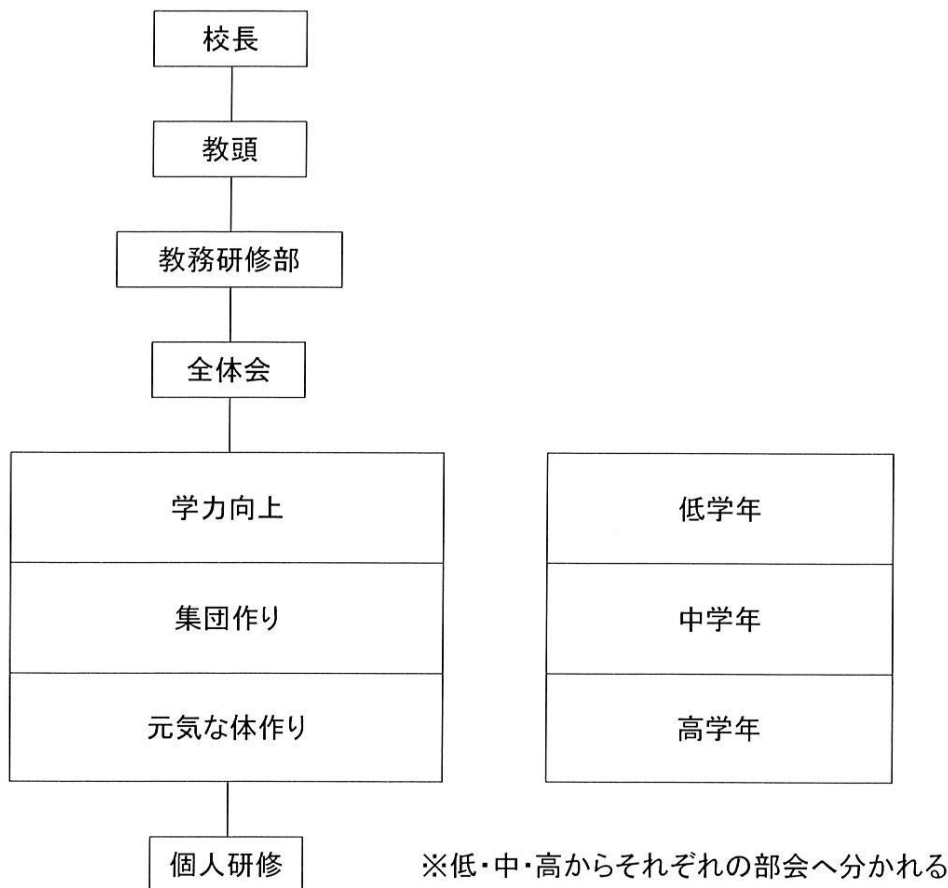
本校の実態として、学級の人数が少なく単学級であることから、人間関係が固定されやすく、強い立場と弱い立場にいる児童がはっきりしている。児童アンケート結果を見ても、自分に自信を持ちにくい児童がいることがわかる。また、支援を要する児童も多く、学力・集団づくり・体力づくりにも影響があることを感じている。効果的な指導方法のさらなる研究が必要となる。

また、近年では「非認知能力」という言葉をよく聞くようになってきた。「非認知能力」とは、自分を調整したり自制したりする「自分と向き合う力」、意欲や向上心などの「自分を高める力」、コミュニケーション力や共感性、協調性など「他者と繋がる力」の3つの力のことである。点数で測ることができる「認知能力」とは異なり、点数などでは測れない、学びに向かう姿勢や姿だと言われている。価値観が多様化し、急激に変化する社会を生き抜く子どもたちにとって必要不可欠な力と言える。

これらのことより、今年度は「自分の考えを持ち、生き生きと活動する児童の育成をめざして～「非認知能力」や児童の気づきを大切にしたい授業を通して～」をテーマとし、学力向上部会・集団作り部会・元気な体作り部会の3部会で研究を進めることとした。学びに向かう力、つまりは「非認知能力」を児童の土台として育むことで、より自分の思いを生き生きと表現したり、自他のよさを認め合い友達と協力して仲良く関わったり、意欲的に運動を楽しんだりすることができるようになるのではないかと考える。

すべての児童が、生き生きと楽しく学校生活を送れることが教職員・地域・保護者の一番の願いである。

3. 研究組織



4. 弓削小学校の取り組み

(1) ルーブリックの作成

まず、教職員で弓削小学校の児童の実態を出し合った。その中で、児童はどの学年でも失敗を恐れず挑戦することや、もっとよいものへと向上心を持つことなど「自分を高める力」に課題があると明らかになった。次に、弓削小学校で育てたい児童の姿を、詳しく言語化・具体化して、「できない、分からない課題に直面したときの自分を高める力（むずかしい・分からないときのチャレンジスキル）」と「話し合いや発表の場面で発信と受信をするときの自分を高める力（じょうずな話す聞くスキル）」とに分けて、ルーブリック(資料①)に表した。それぞれのスキルでは、発達段階を考慮し、低・中・高学年の目安となるよう9段階にまとめた。ルーブリックに表すことで、教師は児童の行動に気づき、丁寧にがんばりを見取ることができる。また、児童自身が気づいていない行動にも価値づけする声かけをすることができるようになると考えられる。児童もめざすべき姿がはっきりすることで、より前向きに自分の力を高めていく姿につながっていくと考えられる。児童には、ルーブリックを元に、各学年の実態に合わせて項目を絞ったものをがんばりカードに提示し、振り返りなどで活用できるようにした。

(2) 弓削小ギミック(「自分を高める力」を生み出すしかけ) ブラッシュアップシートの活用
 ルーブリックを元に、児童につけたい力を意識しながら授業を考えると、授業の中でいかに児童が「自分を高めようとしている」場面を生み出すかが大切になる。普段、私たち教師はどのようにしたら授業のねらいに迫れるかを考え、教材教具・活動内容・活動場所などの工夫や児童への支援を行いながら授業をしている。その工夫や支援が「ギミック(しかけ)」そのものである。私たちが普段行っているギミックをより意識的に設定することで、教師の授業力をブラッシュアップすること(磨き上げること)につながり、児童の「非認知能力」の育成にもつながると考えられる。そこで、ブラッシュアップシート(資料②)を活用しながら授業の計画、実践、振り返りを繰り返し行うことを校内研修に位置付け、全員で取り組んでいる。

(3) GIGA スクール構想 ICT 活用事例

○日常の授業の中で活用

国語	<ul style="list-style-type: none"> 音読劇を動画で撮影→振り返り 模造紙機能で言葉あつめをして共有 手紙の下書き 	家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 掃除の Before と After の写真比較
社会	<ul style="list-style-type: none"> グーグルアースで町の様子を知る 資料の読み取り・比較 予想の共有 地図帳の QR コード読み取り 	体育	<ul style="list-style-type: none"> マット運動を動画で撮影→比較検討
算数	<ul style="list-style-type: none"> 作図の仕方を動画で確認(QRコード) 自分の考えを書き込みしてクラスで共有 	外国語	<ul style="list-style-type: none"> スピーチ発表の様子を動画で撮影→振り返り
理科	<ul style="list-style-type: none"> 写真を拡大して観察する 写真に書き込みをして共有 プログラミング学習(発電と電気の利用) 	道徳	<ul style="list-style-type: none"> 模造紙機能で意見交流
生活	<ul style="list-style-type: none"> 写真で記録し拡大しながら話し合い活動 観察記録にも写真を貼り付け 学校探検(6年生作成の教室紹介動画) 	総合	<ul style="list-style-type: none"> 教室紹介動画(学校探検コラボ) 地域の特産物育ての記録 学習クイズ作り(米作り)
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リズム打ちの仕方や鍵盤ハーモニカの指使い動画(QRコード) けん盤ハーモニカ発表会記録 	その他	<ul style="list-style-type: none"> テレビで朝礼発表 アンケート利用 低学年のローマ字打ち体験 タブレットドリル(漢字・計算)
図工	<ul style="list-style-type: none"> 描画の対象物を写真に撮り活用 図工の作品発表会 鑑賞(アートカード) 		

【低学年】

生活科「がっこうたんけん」



学校探検で2年生の説明に補足する形で、動画を視聴した。動画は、6年生がタブレットの動画撮影機能を使って特別教室の使い方をわかりやすくまとめてくれたものを使用した。

この動画があることで、実際にその教室を使っている様子を見ることができ、子どもたちにとってとても分かりやすいようになった。また、学年をつなぐツールとして活用することができた。

算数科「20までのかず」

タブレットのカメラ機能を使って、身の回りにある20までの数を見つける活動を行った。写真を撮ることによって身近な生活の場面にも活用されていることに気が付いたり、見つけた数字を分かりやすく別のグループの友達にも伝えたりでき、数量についての感覚を豊かにする活動となった。



国語科「どうぶつ園のじゅうい」



タブレットの協働制作ソフトに場面ごとの挿絵を取り込み、挿絵から気づいたことや考えたことを書き込んだ。挿絵と本文を元に、いつ、どこで、仕事の内容、工夫などをプリントにまとめ発表した。

一人ずつの書き込みがタブレットで共有でき、児童の発言を本文とつなげながら改めてタブレットの挿絵で確かめることで、じゅういさんの工夫や大変さ、飼育員さんとの協力が気づくなど、より学習を深めることができた。

野菜の観察記録を書くときに、タブレットのカメラ機能で、野菜の写真を撮った。野菜の成長や気づいたことが分かるように写真を撮るように声をかけ、その後クラスで気づきを共有した。写真を拡大させながら、分かりやすく友達に伝えたり、聞いたことを自分の野菜の写真で見返し、確かめたりすることができた。タブレットで学習することのよさを改めて感じることもできた。写真を印刷して、観察記録に添付した。

生活科「やさいをそだてよう」



【中学年】

体育科 「マット運動」



「マット運動」の学習では、タブレットのカメラ機能を使って、各自の試技の動画を撮影し合った。「腰を高く上げる」「背中を丸めておへそを見る」などの技能ポイントを、撮影した動画で確認しながら児童が互いにアドバイスし合うことができた。その結果、次の試技の際に自分が気を付けるポイントを明確にすることができ、意欲の高まりにつながった。

社会科 「わたしたちの県」

「わたしたちの県」の学習では、地図帳のQRコードを読み取って、岡山県の地形や産業について調べる活動を行った。タブレット上で地図の拡大・縮小、資料の閲覧ができるため、地名や特産物などの読み取りがしやすく、より理解を深めることができた。



音楽科 「鍵盤ハーモニカの運指」

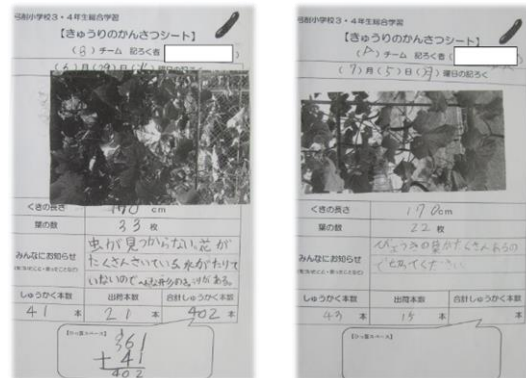


運指に気を付けて鍵盤楽器の演奏ができるようにするために、教科書のQRコードを読み取り、実際に演奏している映像を見ながら練習した。「指くぐり」や「指またぎ」の方法を近くで見ながら何度でも繰り返し練習することができ、演奏技能の向上が見られた。

総合的な学習の時間

「地域の特産物(きゅうり)栽培の記録」

きゅうりの成長観察日誌に使う写真をタブレットのカメラで毎日撮影した。全員が同じきゅうりを同じ角度から撮ることで、成長の様子がよくわかる写真を撮ることができた。毎日の観察日誌を作成する中で、「撮影」「データに名前を付けて保存」「印刷」などのスキルを身に付けることができた。



理科「生き物をさがそう」



タブレットのカメラ機能を使って、植物や昆虫などの様子を撮影した。それをもとに、花を色によって分類したり、昆虫の活動のようすやすみかを調べたりした。この活動では、画像で手軽に多くの記録ができたことで、幅広く比較・分類などができたという良さがあった。

【高学年】

総合 「米米クイズ」



米への興味関心を深めるために、米について詳しく調べてクイズを作った。他学年にも楽しく解いてもらえるように、写真や色合い、振り仮名表記など工夫して作成した。

タブレットの模造紙機能を使って、一人ずつの担当ページを設けた。教師がモニターで全体共有するのではなく、友達のページを見たい時に閲覧できるので、いいところを自分のページに随時活かすことができた。学習を通して、自分なりに工夫して、より良いものにしようとする態度が多く見られた。

家庭科 「ビフォーアフター」

クリーン大作戦では、掃除をする前後の状態を視覚的に理解することができるように、写真にして比較した。また、写真にすることで、自分の担当以外の掃除場所の様子も共有することができ、身の回りの汚れをきれいにするための、工夫された掃除の仕方を共通理解することができた。



ビフォー アフター
(コンロの下です)

英語 「英語クイズを作ろう」



自分たちのスピーチの様子を動画撮影し、発表後にスピーチの様子を振り返ることで、良かったところや、改善点などを自分でも省みることができた。特に、目線やジェスチャーなどを意識して見ることができ、次の発表へのモチベーションを高めることにもつながった。

また、欠席等で見るできなかったクラスメートにも、後日、見せることができ、授業外での活用にもつながることができた。

資料から読み取れることを、画像への書き込みを通して共有した。自分の考えのもととなる資料へ印をつけ、友達と共有することができるため、自分の考えを明確に伝えることができた。また、日頃なかなか発表することが難しい児童も、印をつけた部分を簡単に説明したり、言葉にできない場合は、印だけでの発表にしたりすることができた。全ての児童が自分なりに発表することができる環境とすることができた。

社会科 「導入での予想の共有」



弓削小学校『自分を高める力』ルーブリック

できない、わからない 課題に直面したとき の『自分を高める力』	高学年	できない、わからないに獲得して きた知識を活かすことができる	レベル3 レベル2 レベル1	明確に根拠をつけて自分の考えを示すことができる。 はっきりと自分の考えを示すことができる。 調べたことをもとに、ぼんやりと自分の考えを示すことができる。
	中学年	できない、わからないを解決する ために求めることができる	レベル3 レベル2 レベル1	自分の力で解決しようとすることができる。 手がかりを元に自分なりに考えることができる。 先生や友達に手がかりがほしいと言うことができる。
	低学年	できない、わからないを伝えること ができる	レベル3 レベル2 レベル1	なにがわからないかはっきりと言うことができる。 なにがわからないかをなんとなく言うことができる。 ひたすらわからないと言うことができる。
	高学年	話し合いや発表の場面で創造的 な発信ができる	レベル3 レベル2 レベル1	多様な考えを友達と共有して、深め、表現することができる。 多様な考えを友達と共有し、比較することができる。 多様な考えを友達に発信することができる。
	中学年	話し合いや発表の場面で受信と 発信をすることができる	レベル3 レベル2 レベル1	友達の考えにつなげて、自分の考えを言うことができる。 友達の考えを聞いて、自分の言葉でいうことができる。 反応しながら聞く。
	低学年	話し合いや発表の場面で発信す ることができる	レベル3 レベル2 レベル1	全体の場で何度も発表ができる。 自分の考えを全体の場で伝えることができる。 自分の考えを近くの人に伝えることができる。

話し合いや発表の場面で
受信と発信をするとき
の『自分を高める力』

ブラッシュアップシート

テーマ 〈固定〉				
目標 〈固定〉				
本時の 内容	教科			
	単元名	(第 時)		
本時の ねらい				
本時の 自分を高 めるカ シーン	タイム	授業開始して 分頃から 分頃まで		
	イメージ	児童たちにどんな【課題を乗り越えた／わかり合おうとした】活動が生み出せそうか？		
	ギミック	場所 (環境)	教室選び, 机や椅子の配置…など	
		物 (教具)	自分を高める力を誘発する道具…など	
活動 (内容)		乗り越える課題やわかり合うことが必要になってくる活動…など		
振り返り	課題を 乗り越えた	／10	今回の結果に対する理由や今後の見通しについて	
	わかり合 おうとした	／10		

第2学年 算数科学習指導案

令和3年10月13日(水) 第5校時 2年教室 指導者 鳩場 千恵

1 単元名 『三角形と四角形』

2 単元の目標

三角形や四角形について、観察を通してその分類や意味を理解し、構成要素を調べたり図形を構成したりすることを通して、平面図形の性質やその見方・考え方をとらえさせるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

3 本時案(第一次第2時)

(1) 目標

三角形と四角形の意味を知り、三角形と四角形を弁別したり、わけを説明したりすることができる。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1 「どうぶつの家づくり」を振り返り、本時の課題をつかむ。	○「どうぶつの家づくり」の活動を想起させ、直線という言葉を押さえ、本時の学習につながりやすいようにする。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> めあて 直線の数を見て、形のなかま分けをしよう。 </div>	
2 自分で課題解決する。	○タブレットの画面上でなかま分けをすることで、なかま分けの課題に集中できるようにする。 ○タブレットの画面上に区切りの線を書き込むことで、なかま分けした根拠をはっきりさせ、交流の活動につなげやすくする。	
3 互いに考えを交流し、「三角形」「四角形」という用語の意味を知る。	○タブレットの画面を示しながら、なぜこう分けたか理由を話すことができるようにする。 ○「3本」「4本」「直線」「囲まれている」という言葉に注目して、一つ一つ意味を理解できるようにする。	
4 定義を元に、三角形と四角形の弁別をする。	○タブレットを使うことで問題の図形を簡単に動かすことができ、より視覚的に分かりやすく、定義を意識しながら考えることができるようにする。また、弁別しづらい図形にも試行錯誤しながら取り組めるようにする。 ○区切り線を書き込むことで、分からない課題をはっきりさせ粘り強く取り組めるようにし、それを元に示しながら話すことで、なかま分けの根拠を伝え合いやすくする。 ○タブレットを見せ合いながら進んで話し合いを行いやすいように、教卓の周りに集まって交流するよう声をかける。 ○分かりにくい図形があれば、その図形を中心に持ち上げ、どうして迷うのか理由を問いつつ互いに考えを交流するようにし、図形の定義と結び付けながら考えられるようにする。 ○3本の直線で囲まれていれば、回転して違う向きになっていても三角形と言えることに気づかせることで、図形の見方を広げることができるようにする。また、直線になっていないものや、囲まれていないところがあるものは、三角形や四角形とは言えないこともおさえるようにする。	・三角形と四角形を弁別している。 【知識・技能】 (タブレット) ・三角形や四角形といえるわけを考えたり、説明したりしている。 【思考・判断・表現】 (発言・タブレット)
5 本時のまとめをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> まとめ 直線の数やかまれているかどうかで、三角形と四角形に分けることができる。 </div>	
	○まとめをし、時間があればデジタル教科書にあるフラッシュカードの問題に取り組み、より定着できるようにする。	
6 振り返りをし、次時の活動を知る。	○ルーブリックを参考にしながら、「自分を高める力」ではどんなことができたか振り返り、児童のがんばりを認めることができるようにする。	

◎「おおむね満足できる」状況(B)と判断する児童の姿の例

直線の数や囲まれていることに着目し、三角形と四角形を弁別したり、わけを説明したりしている。

弓削小学校「自分を高める力」ギミック＝『弓削小ギミック』

ブラッシュアップシート

<p>テーマ 〈固定〉</p>	<p>自分を高める力 ①できない、わからない課題に直面したときの自分を高める力 ②話し合いや発表の場面で受信と発信をするときの自分を高める力</p>			
<p>目標 〈固定〉</p>	<p>私の授業で「自分を高めようとしている」シーンを生み出す！！ ①できない、わからない課題に直面したときに、その課題を乗り越えようとしている姿 ②話し合いや発表の場面で受信と発信をするときに、わかり合おうとしている姿</p>			
<p>本時の 内容</p>	<p>教科</p>	<p>算数</p>		
	<p>単元名</p>	<p>三角形と四角形(第一次 第2時)</p>		
<p>本時の ねらい</p>	<p>三角形と四角形の意味を知り、三角形と四角形の弁別をしたり、わけを説明したりすることができる。</p>			
<p>本時の 自分を高め る力 シーン</p>	<p>タイム</p>	<p>授業開始して20分頃から35分頃まで</p>		
	<p>イメージ</p>	<p>児童たちにどんな【課題を乗り越えた／わかり合おうとした】活動が生み出せそうか？ ・弁別しづらい図形にも粘り強く思考している。 ・自分の考えを進んで友達に伝えたり聞いたりしている。</p>		
	<p>ギミック</p>	<p>場所 (環境)</p>	<p>教室選び、机や椅子の配置…など ・進んで話し合いがしやすいように、教卓の周りで集まるようにする。(お茶の間方式)</p>	
		<p>物 (教具)</p>	<p>自分を高める力を誘発する道具…など ・タブレットを使うことで弁別しづらい図形にも試行錯誤しながら取り組めるようにする。 ・区切り線を書き込むことで、分からない課題をはっきりさせ粘り強く取り組めるようにする。 ・書き込んだ区切り線を示しながら話すことで、なかま分けの根拠を伝え合いやすくする。</p>	
<p>活動 (内容)</p>	<p>乗り越える課題やわかり合うことが必要になってくる活動…など ・弁別しづらい図形を取り上げることで、困ったり迷ったりする場面を設定し、互いに話し合う活動が必要となるようにする。</p>			
<p>振り返り</p>	<p>課題を 乗り越えた</p>	<p>／10</p>	<p>今回の結果に対する理由や今後の見通しについて</p>	
	<p>わかり合 おうとした</p>	<p>／10</p>		

1 単元名 『走・跳の運動 幅跳び』

2 単元の見積

幅跳びに進んで取り組み、自己の能力に適した課題を見つけ、動きを身に着けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、幅跳びの楽しさや喜びに触れ、短い助走から強く踏み切って遠くへ跳ぶことができるようにする。

3 本時案(第2時)

(1) 目標

自分にあつたコースを選択し、同じリズムで助走したのち、自分で決めた踏切り足で踏み切ってリズムよく跳ぶ技能を身につけることができる。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 基礎感覚を高める運動と立ち幅跳びの練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○体をスムーズに動かす感覚を高めるため、スキップ・ケンケン・両足跳びなどの基礎感覚を高める運動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・リズム感覚・・・スキップ ・平衡感覚・・・ケンケン跳び ・跳感覚・・・両足跳び ○安全な着地や空中姿勢を身につけさせるために、前時の学習内容を想起させ、立ち幅跳びの練習を繰り返す行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・両手の振り上げ・空中姿勢(「I」の姿勢) ・着地はかかとから(「く」の姿勢) ・着地姿勢はおしりとかかとをつける(「ん」の姿勢) 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じリズムで助走したのち、リズムよく踏み切ることができる。 【技能】(観察) ・自己の課題を見つけ、アドバイスを次の試技に生かそうとしている。 【思考・判断・表現】(観察)
2 本時の課題をつかむ。	<p>めあて 「ト・ト・トーン」のリズムで調子よく跳んでみよう。</p>	
3 踏切り足・走り出し足を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の踏切り足がわからない児童に対しては、以下のような方法で自分の踏切り足と走り出し足を決めさせる。 ※障害物を超える時に踏み切っている足、両足をそろえて前に倒れた時に残った足が踏切り足、走り出し足となる。 	
4 踏切り練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○歩幅により、助走距離を変えたコースを3つ設けることで、自分の歩幅にあつたコースを選択し、粘り強く練習することができるようにする。 ○「低い姿勢」「片足を引いて」などを児童同士で声かけさせ、スタート姿勢をお互いに意識することができるようにする。 ○「ト・ト・トーン」のリズムを意識させる。児童にもお互いに声をかけさせることで、声に合わせて跳ぶことができるようにする。 ○空中姿勢と着地は、立ち幅跳び時の姿勢を意識させる。 ○グループで練習の様子を動画に撮らせ、互いによかったところや改善点を話し合うことで、次の試技や振り返りに生かすことができるようにする。 ○「ト・ト・トーンのリズムで跳ぶ」ことに加え、前時に児童が見つけた「両手を振り上げる」「おしりとかかとをつけて着地する」といった意識すべき技能ポイントを掲示しておき、話し合いの際に児童が適宜見直すことができるようにする。 ○必要に応じて、踏切り位置にロイター板を置いたり、砂場に目標になる線を引いたりすることで、より遠くへ跳ぶ感覚を身につけることができるようにする。 ○自分の選んだ助走歩数での記録を学習カードに記入させ、次時への期待を持たせる。 	
5 本時のまとめをする。	<p>まとめ 「ト・ト・トーン」のリズムを意識すると跳びやすい。</p>	
6 振り返りをし、次時の活動を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ルーブリックを参考にしながら、本時の学習の様子を振り返ったり、わかったことや考えたことを共有したりすることで、自分や友達のがんばりを認めることができるようにする。 	

◎「おおむね満足できる」状況(B)と判断する児童の姿の例

- ・「ト・ト・トーン」のリズムで跳んでいる。
- ・自分の踏切り足で力強く踏み切って跳んでいる。

弓削小学校「自分を高める力」ギミック＝『弓削小ギミック』

ブラッシュアップシート

<p>テーマ 〈固定〉</p>	<p>自分を高める力 ①できない、わからない課題に直面したときの自分を高める力 ②話し合いや発表の場面で受信と発信をするときの自分を高める力</p>	
<p>目標 〈固定〉</p>	<p>私の授業で「自分を高めようとしている」シーンを生み出す！！ ①できない、わからない課題に直面したときに、その課題を乗り越えようとしている姿 ②話し合いや発表の場面で受信と発信をするときに、わかり合おうとしている姿</p>	
<p>本時の 内容</p>	<p>教科</p>	<p>体育科</p>
	<p>単元名</p>	<p>幅跳び(第2時)</p>
<p>本時の ねらい</p>	<p>自分にあったコースを選択し、助走ののち、自分で決めた踏切り足で踏み切ってリズムよく跳ぶ技能を身に着けることができる。</p>	
<p>本時の 自分を高め る力 シーン</p>	<p>タイム</p>	<p>授業開始して15分頃から40分頃まで</p>
	<p>イメージ</p>	<p>児童たちにどんな【課題を乗り越えた／わかり合おうとした】活動が生み出せそうか？ ・自分の決めた踏切り足で粘り強く跳ぼうとしている。 ・動画で跳ぶ様子を確認し合い、話し合ったことを次の試技に生かそうとしている。</p>
	<p>場所 (環境)</p>	<p>教室選び、机や椅子の配置…など ・歩幅により助走距離を変えたコースを3つ設けることで、自分の歩幅にあったコースで粘り強く練習することができるようにする。 ・同じコースで練習する児童同士でグループを組むことで、お互いの試技についての話し合いができるようにする。</p>
	<p>物 (教具)</p>	<p>自分を高める力を誘発する道具…など ・タブレットでお互いの跳ぶ様子を撮影することで、自分の試技の様子がわかるようにする。 ・「ト・ト・トーンのリズムで跳ぶ」「両手を振り上げる」「おしりとかかととつけて着地する」といった技能ポイントを掲示しておくことで、話し合いの際に児童が参考にするようにする。</p>
<p>活動 (内容)</p>	<p>乗り越える課題やわかり合うことが必要になってくる活動…など ・タブレットを使って撮影した動画をお互いに見合い、技能ポイントと照らし合わせながらよかったところや改善点について友達からアドバイスしてもらうことで、自分の課題をはっきりさせ、次の試技に生かすことができるようにする。</p>	
<p>振り返り</p>	<p>課題を 乗り越えた</p>	<p>／10</p>
	<p>わかり合 おうとした</p>	<p>／10</p>

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和3年 10月 13日(水) 第5校時 6年教室 指導者 黒澤 賢臣

1 単元名 『伝えよう、ほんにいいとこ久米南町』

2 単元の見どころ

久米南町の良いところをフィールドワークや地域の人とのかかわりの中から再認識し、AR アプリ『マチアルキ』を活用して、久米南町の魅力を多くの人に伝える活動を行うことで、郷土への関心を深められる。

3 本時案(第二次 第3時)

(1) 目標

AR アプリ『マチアルキ』を活用し、友達と協力して久米南町の魅力をまとめていくことができる。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1 ワークシートや制作した映像などを見て、前回までの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までのワークシートや、マチアルキで作った映像などを見て学習を振り返り、本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて 久米南町の魅力を見る人にわかりやすくまとめよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の見通しを持つことができるように、学習の流れやアプリの使い方を掲示しておく。 ○見る人が「わかりやすい・ワクワクする・行きたいと思える」を感じられるものにするという視点を再確認し、意識できるようにする。 	
2 「誕生寺笛吹川歌碑公園」「治部邸」「特産物」「久米南美しい森」の紹介ページを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ○地域のパンフレットや他地域のPRポスターなどを児童がいつでも見られるように準備し、工夫されたものにできるようにする。 ○「作る→直す」の作業を繰り返し行う大切さを活動の中で伝え、児童が協同的に粘り強く取り組めるようにする。 ○友達とでわからないことを教え合ったり、より良いアイデアや表現方法を考えたりする姿を認めていき、「チームで作る」意識を高められるようにする。 ○一人一人がそれぞれの役割に一生懸命取り組む姿を認めていき、主体的に活動に取り組めるようにする。 ○作成過程を児童と共に確認し、必要に応じて助言をするようにする。 ○一人で作業がなかなか進められない児童には、教師と一緒に作業をしたり、周囲の児童に手助けが必要なことを促してサポートをしたりして、できることを精一杯できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協同的に話し合い、かかわりながら取り組もうとしている。 <small>【主体的に学習に取り組む態度】</small> (観察) ・アイデア豊かに見る人のことを意識したページを作成している。 <small>【思考・判断・表現】</small> (タブレット・メモ)
3 本時でできたところまでを共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と良いところや改善点などを伝え合い、次回の学習課題へとつなげていく。 ○見てくれる人たちの目線になって、作成したページを見るように声をかけ、目的意識をはっきりとさせる。 ○それぞれの班の良かったところを具体的にフィードバックし、次時への意欲の向上につなげていくとともに、他班の良いところを取り入れていこうという気持ちをもてるようにする。 	
4 本時のまとめをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ 見る人のことを意識して、文字や画像を組み合わせることでできた。</p> </div>	
5 学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ルーブリックを参考にしながら、今日の自分の学習の様子を振り返り、自身の頑張りを振り返られるようにする。 	

◎「おおむね満足できる」状況(B)と判断する児童の姿の例
友達と考えを伝え合いながら、久米南町の魅力をわかりやすくまとめている。

弓削小学校「自分を高める力」ギミック＝『弓削小ギミック』

ブラッシュアップシート

<p>テーマ 〈固定〉</p>	<p>自分を高める力 ①できない、わからない課題に直面したときの自分を高める力 ②話し合いや発表の場面で受信と発信をするときの自分を高める力</p>		
<p>目標 〈固定〉</p>	<p>私の授業で「自分を高めようとしている」シーンを生み出す！！ ①できない、わからない課題に直面したときに、その課題を乗り越えようとしている姿 ②話し合いや発表の場面で受信と発信をするときに、わかり合おうとしている姿</p>		
<p>本時の 内容</p>	<p>教科</p>	<p>総合的な学習の時間</p>	
	<p>単元名</p>	<p>伝えよう、ほんにいいとこ久米南町(第二次 第3時)</p>	
<p>本時の ねらい</p>	<p>AR アプリ『マチアルキ』を活用しながら、友達と協力して久米南町の魅力をまとめていくことができる。</p>		
<p>本時の 自分を高め る力 シーン</p>	<p>タイム</p>	<p>授業開始して 5 分頃から 30 分頃まで</p>	
	<p>イメージ</p>	<p>児童たちにどんな【課題を乗り越えた／わかり合おうとした】活動が生み出せそうか？ ・友達と一緒にどう表現すれば伝わりやすいかを試行錯誤し、まとめようとしている。 ・良いところと改善点を見る人の目線に立って、考え合おうとしている。</p>	
	<p>ギミック</p>	<p>場所 (環境)</p>	<p>教室選び、机や椅子の配置…など ・単元を通して、14人を4人・4人・3人・3人の4班編制とし、話し合いと役割分担がしやすくしておく。 ・机を合わせるようにし、話し合いがいつでもできるようにする。</p>
		<p>物 (教具)</p>	<p>自分を高める力を誘発する道具…など ・タブレットを使用し、文字と映像の組み合わせや、『作る→直す』を簡単に繰り返すことができるようにする。 ・地域のパンフレットをいつでも見えるようにし、内容の工夫にいかすことができるようにする。 ・他地域の PR ポスターや動画を準備し、良い表現の仕方を工夫することができるようにする。</p>
<p>活動 (内容)</p>	<p>乗り越える課題やわかり合うことが必要になってくる活動…など ・文字・画像・動画・言葉をどのように組み合わせると、人にわかりやすく伝わるのかを考えさせる。 ・役割分担と条件を与えることで、お互いに話し合う活動が必要となるようにする。</p>		
<p>振り返り</p>	<p>課題を 乗り越えた</p>	<p>／10</p>	
	<p>わかり合 おうとした</p>	<p>／10</p>	

公開授業・研究協議のお願い

1. 公開授業について

研究テーマ 「自分の考えを持ち 生き生きと活動する児童の育成をめざして」
 ～「非認知能力」や児童の気づきを大切にしたい授業を通して～

<授業を見る視点>

- ・ブラッシュアップシートに書かれているギミック(しかけ)が効果的か
- ・ICTが有効に活用されているか

2. 研究協議について

研究協議までに、指導案についているブラッシュアップシートの振り返りに点数とその理由を記入する。
 ブラッシュアップシートの振り返りに書いた点数とその理由をもとに研究協議をします。

- ① グループに分かれブラッシュアップシートを元に個人の気づき(振り返りの点数とその理由)を付箋に書き込み共有する。
- ② グループとしての点数と理由を決める。
- ③ 全体で共有する。

授業参観後、振り返り欄に

- ① 点数(達成度)
- ② 点数(達成度)に対する理由や改善案などを記入の上、研究協議に参加をお願いします。

弓削小学校「自分を高める力」ギミック＝『弓削小ギミック』
 ブラッシュアップシート

テーマ (固定)	自分を高める力 ①できない、わからない課題に達成したときの自分を高める力 ②話し合いや発表の場面で受容と発信をするときの自分を高める力			
目標 (固定)	私の授業で「自分を高めようとしている」シーンを生み出す！！ ①できない、わからない課題に達成したときに、その課題を乗り越えようとしている姿 ②話し合いや発表の場面で受容と発信をするときに、わかり合おうとしている姿			
本時の内容	教科			
	単元名	(第 時)		
本時のねらい				
本時の自分を高める力シーン	タイム	授業開始して	分頃から 分頃まで	
	イメージ	児童たちがどんな[課題を乗り越えた/わかり合おうとした]活動が生み出せようか?		
	ギミック	場所 (環境)	机並び、机や椅子の配置—など	
		物 (教具)	自分を高める力を誘発する道具—など	
活動 (形式)		乗り越える課題やわかり合うことが必要になってくる活動—など		
振り返り	課題を乗り越えた	✓10	今回の結果に対する感想や今後の見直しについて	
	わかり合おうとした	✓10		

研究協議要項

令和3年10月13日
14:40~15:30

<分散会>

- 1 授業者より (14:40~14:45)
- 2 研究協議 (グループ討議) (14:45~15:05)
- 3 グループ発表 (15:05~15:15)
- 4 指導講評 (15:15~15:30)
- 5 閉会

講演会

演題 「 弓削小学校の取り組み まるわかり講座 」

講師 岡山大学 全学教育・学生支援機構 准教授

中山 芳一 先生

<MEMO>



弓削小学校 会場図

